



8月園だより

令和8年8月1日
目黒区立不動保育園園長

曇りの涼しい日は全クラスが「散歩行ってきまーす」と早々に林試の森公園にでかけていきます。蝉が鳴いてると虫網を持って出かけたものの、まだこの時期の蝉は高い所にいることが多く捕まえることができません。代わりに「見てみて」と満面の笑みで持ち帰ったのは蝉の抜け殻でした。肩から下げたマイバックいっぱいには抜け殻をもって“自分のモノ”に満足そうな2歳児クラスのこどもたち、3歳児クラスの子どもたちは抜け殻の背中が破けていることに気づき、「蝉はどうやって出るんだろう」とつぶやき、大きさの違いに「こっちは何の（種類）蝉」と興味を広げていました。4歳児、5歳児は夢中になって集めた抜け殻をどうするか保育士と相談しながら、爪が布に引っかかると発見し数を数えながら並べてみたり、積み木で作った建物に並べて”抜け殻マンション（ホテル）“を作ったりしていました。抜け殻を積み木の部屋にいれ「4人家族なんだ」「近くには公園を作ろう」自分の家族や経験と重ねながら楽しんでいました。身近な生き物や自然物に触れたり、観察したりしながら子どもたちの自然物への愛着や好奇心を育てていきたいと思えます。

～行事予定～

プールじまい（幼児クラス）

避難訓練（全園児）

身体計測（全園児）

カブトムシだいすき

ドキドキ



ごはん食べてね

「おいしくてたまらない～」 ～3歳児 コスモス組～



春に園庭の花壇にジャガイモの種芋を植え、保育士と水やりをしながら、生長を楽しみにしてきました。収穫の日を迎え、両手で土を掘り起こしジャガイモが出てくると「あったー」と驚きと嬉しさの入り混じった表情をしています。「大きいのが見つけた」「くまの形している」「ハートもあったよ」といろいろ

な形を見つけ、いつも見るジャガイモとは違う形に驚いていました。「たくさんあるね、じゃあ、みんなで数えてみよう、1～、2～」と保育士と一緒に数えてみると、子どもたちの理解を超える数の多さに“まだあるの”という感じでしたが、数えた分だけたくさんの収穫だったことを感じ「いっぱいだったね」と大収穫を喜んでいました。なんと大小あわせて163個ありました。後日、水を張ったタライでじゃがいもを洗い、おやつでフライドポテトにして食べました。じゃがいもが苦手だった子も食べてみると「おいしくてたまらない～」とおかわりするほどのおいしさと、全部食べ切り大好評でした。ジャガイモの生長を見守ってきたことで、よりいっそうおいしく感じられたのかもしれない。



あそぶのだいすき

～乳児クラスのマイブーム遊びを紹介します～

『音や歌が聞こえるよ』

～0歳児 スズラン組～

両手に持って遊んでいた積み木を打ち合わせると、カチンと音が鳴りました。顔を上げ保育士と目を合わせながらももう一度カチンと鳴らします。保育士が「いい音がしたね」と声をかけると再び視線を積み木に落とし鳴らしてみます。積み木を合わせると音が鳴ることを発見したようです。他の子も保育士のそばにやってきて保育士の打ち合わせている積み木に両手を伸ばして欲しがるので「はい、どーぞ」と渡すと嬉しそうに受け取り、友達や保育士の真似をして遊んでいました。また保育士の「おもちゃのチャチャチャ」を歌う声が聞こえると、周りで聞いている子どもたちも、歌に合わせて体を前後に揺らしたり腹ばいで手足を動かしたり、床を叩いて音を出していました。色々な音や歌に気づき、それぞれの楽しみ方で遊んでいます。



『ふわふわもちもちほどける気持ち』

～1歳児 チューリップ組～



ある袋をみると指をさして「パン（やろう）」と保育士を誘ってきます。ある袋の答えは・・・小麦粉の袋です。丸く成型された粘土を見て一人の子が「パン」とつぶやいたことから、小麦粉粘土＝パン遊びになりました。小麦粉粘土を初めて行ったときには、保育士が小麦粉と水を混ぜ合わせる様子を見ながら保育士の手へべたと張り付く小麦粉粘土をみて眉がハの字になり、怪訝な表情を浮かべていました。「なんだろうね」といいながら粘土を目の前に置くと柔らかいけれど少し反発がある感触に「わあ～」と声があげ、ちぎったりつぶしたりそれぞれの楽しみ方をしています。触れていく中でこわばっていた表情もいつのまにかほぐれていきました。様々な素材に触れながら「気持ちいい」「面白い」など感触や変化していく面白さを一緒に楽しんでいきたいと思います。

『避難訓練ごっこはいつも突然に』

～2歳児 タンポポ組～

保育室で遊んでいると、一人の子が「地震です。安全なところに避難してください。」と大きな声を出しました。周りで遊んでいた子どもたちも「大変だ！地震！」と言いながら遊んでいた手を止め、ザルや人形用の布団を防災頭巾に見立てて被り、部屋の中央に集まりました。突然避難訓練ごっこが始まったようです。電話に見立てたリング積み木を片手に持ち、集まった人数を数え、「園長先生、タンポポぐみ、9人です。」や「助けに来てください。」と電話をする子が登場すると他の子どもたちも立ち上がり、ほとんど全員が電話で人数を報告しています。また、電話を終えた子は避難リュックに見立てたナップザックに沢山の玩具を入れて避難する準備をする子もいました。いつも突然始まる避難訓練での様子をよく見ていると感心してしまいました。様々なものになりきって遊ぶのが大好きな子どもたちです。保育士も子どものイメージの世界に飛び込み、一緒に楽しんでいきます。

